

2019.9.20 <計2枚>

京都大学記者クラブ加盟社 各位

立命館大学広報課

立命館土曜講座 公開講演会「世界の漢字研究」

日時：2019年9月28日（土）14：00～17：00

会場：立命館大学衣笠キャンパス 以学館

立命館大学衣笠総合研究機構、白川静記念東洋文字文化研究所および立命館孔子学院は、9月の立命館土曜講座(※1)公開講演会「世界の漢字研究」を9月28日(土)に衣笠キャンパスで開催いたします。

世界には中国や日本以外にも漢字を使う国と地域があり、それぞれ研究が進んでいます。本講演会では、世界漢字学会(※2)の研究大会が本学で開催されることに合わせて、漢字発祥の地である中国をはじめ、ノルウェー、ベトナム、韓国、台湾、日本を代表する漢字研究者が、漢字を取り巻く歴史や文化などをテーマに講演します。講演者の一人である中国の臧克和教授は、日本人にとって馴染みのある「邪馬台国」の表記を取り上げ、『後漢書』東夷伝では「邪馬臺國」と書かれている一方で、『三国志(魏志倭人伝)』では「邪馬壹國」と書かれ、史料によって壹(壺)と臺(台)の表記が異なることを解説します。

漢字は私たちの生活に必要な不可欠なものです。本講演会が、これからの情報社会においてもその役割が増すだろうと考える漢字の歴史や文化を知るための一助となれば幸いです。

記

日時：2019年9月28日(土) 14:00～17:00 (開場 13:00)

会場：立命館大学衣笠キャンパス 以学館 IG101(1号ホール)

内容：別紙参照

定員：370名 ※事前申込は不要ですが、当日の入場状況によって、立ち見のお願いまたは入場制限をさせていただく場合があります。

聴講料：無料

発表言語：日本語、中国語(同時通訳あり)

共催：立命館大学衣笠総合研究機構、立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所、立命館孔子学院

協力：世界漢字学会

以上

●取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館大学衣笠総合研究機構 担当:森

TEL.075-465-8224

<http://www.ritsumei.ac.jp/>

●講演テーマと講演者

テーマ	講演者
漢字と文化	朱岐祥 台湾・東海大學中文系 教授
古代中国の言語学の方法論を探る	何莫邪 ノルウェー・コペンハーゲン大学 教授
ベトナムの文字を民族中心主義から分析評論する	阮俊強 ベトナム・越南社会科学翰林院漢喃研究院 院長
国号「日本」の「本」はどのような意味か	大形徹 日本・大阪府立大学教授・立命館大学客員教授
東アジアにおける文字を中心とする文明の根源	河永三 韓国・韓国漢字研究所 教授
中国から見た邪馬台国論争	臧克和 中国・華東師範大學 終身教授／世界漢字学会会長

(※1) 立命館土曜講座・・・1946年から約 3290 回続く市民向け公開講座。故・末川博名誉総長が、「学問や科学は国民大衆の利益や人権を守るためにあること、学問を通して人間をつくるのが大学であり、大衆とともに歩く、大衆とともに考える、大衆とともに学ぶことが重要」と提唱し、大学の講義を市民に広く開放し、大学と地域社会との結びつきを強めることを目指して設けられた。

(※2) 世界漢字学会・・・世界各国の漢字研究者が集い、年に一度研究大会が開催されます。2019年度の第7回研究大会は立命館大学が開催校となり、総勢 80 名以上の漢字研究者が9月27日、28日の2日間かけて漢字に関する最先端の研究を発表します。本研究大会についても一般参加は可能です。ただし、参加には資料代が必要となり、発表言語は中国語のみです。